

令和8年度 第1回八戸市社会教育委員の会議 会議録

- 【日 時】 令和8年5月20日（水）10時00分から11時30分まで
- 【場 所】 SG GROUP ホールはちのへ（八戸市公民館） 2階会議室1・2
- 【出席委員】 田村委員、中奥委員、熊谷委員、田畑委員、田中委員、高橋委員、松井委員、松本委員、根城委員、川守田委員、鈴木委員、福田委員、上平委員
- 【事務局】 教育部長、教育部次長兼教育総務課長、教育部次長、教育部副理事兼社会教育課長、博物館長、是川縄文館副館長、総合教育センター所長、図書館長、学校教育課参事、教育指導課副参事兼主任指導主事、社会教育課職員
- 【次 第】
1. 開会
 2. 委嘱状交付式
 3. 教育長挨拶
 4. 組織会
 5. 委員長挨拶
 6. 案件
 - (1) 令和8年度 八戸市社会教育関係事業の概要について
 - (2) 令和8年度 社会教育関係団体への補助金交付計画について
 - (3) その他
 7. 閉会

質疑応答

■案件（1）、（2）について

資料に基づき各部署より説明後、以下のとおり質疑応答があった。

（松本副委員長）

まず一点目は、3ページの八戸市民大学講座について。例年は回数が8回近くあったと思うが、今年度全5回というのは、やはり会場が使用できないという理由によるものなのか。

（社会教育課長）

お見込みのとおり、今年は例年会場としている SG GROUP ホールはちのへの公会堂及び公民館ホールが6月から11月まで工事で使用できないことが講座回数減の主な理由となっている。また、その他、今年度は国スポ・障スポが10月に入っており、当該期間中の行事が制限されるといったことも重なったものである。

(松本副委員長)

ありがとうございました。よくわかりました。

続いて是川縄文館の12ページ、縄文の里整備事業について、今年度の進捗をお聞かせいただきたい。

(是川縄文館副館長)

先ほど御案内したカラーの資料を御覧いただきたい。

まず上の図は、整備計画図となっている。先ほど御説明したとおり、今第1期整備工事をやっており、この真ん中のオレンジ色の部分はその範囲になっている。今から約3000年前の縄文時代晩期中居遺跡という遺跡で、こちらを今整備している。工区を南工区と北工区に分けて順次工事を進めており、令和6年度から8年度までは下のほうの南工区、9年度から11年度までは北工区を整備することとしている。今年度の内容だが、この南工区の本整備工事と、工事の管理委託、それから北工区の中にある縄文学習館を撤去することにしており、こちらも今年度取り掛かる予定である。そのほか施設の用地取得や、これらの整備の検討委員会等の開催を実施することとしている。

下の図については、整備完成予想図となっている。この図の下のところに倉庫、トイレ、Pと書いている部分があるが、ここを中心として、左側が今整備している南工区、その右側が北工区になり、このような形に整備する予定としている。

供用については、令和12年度から全面供用を目指して現在進めているものである。

(松本副委員長)

ありがとうございました。大変よくわかりました。

この第1期整備範囲が終わった時点で、全体の何パーセントぐらいになるのか。

(是川縄文館副館長)

この他にも、この左側の②一王寺遺跡、それから③堀田遺跡も基本計画としてあり、一王寺遺跡がかなり広い平米数になっている。今、この第1期中居遺跡が大体2万平米弱くらいだが、この一王寺遺跡はその何倍もあるため、全部終わるには相当の時間を要するということになる。まずは第1期整備が終了し次第、供用を開始し、この史跡公園を活用するということに注力をしていきたいと考えている。

(松本副委員長)

ありがとうございました。大変楽しみにしております。

引き続き16ページの図書館事業について。指定休館日の導入がいよいよということだが、いろいろ御検討されて水曜日と木曜日になった、また土曜日の19時までの開館ということ

で計画していると思うが、職員の負担にならないようどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思う。

(図書館長)

今までは6月のように祝日のない月は月1回しか休館日がないという状況だったが、今後は週1回休みが入ることになる。なお月末の休館日は継続しミーティングのためこれまでどおりほぼ全員出勤する。勤務する日として休館日を1日確保した上で週1回休みを取ることができるため、土曜日、日曜日、祝日の振り替えをそこに多く入れることで、人員の確保は確実にでき、職員の負担も増えることはないものと考えている。

(松本副委員長)

ありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

最後に博物館の20ページについて。リニューアル事業に伴って様々な活動をしていただいたが、今年度の市民のための歴史講座の予定はもう決まっているのか。

(博物館長)

講座内容は「石(ストーン)」をテーマに開催する予定としている。全4回で、1回目は古代史の中で黒曜石がどのように流通したかというお話をいただく。2回目は近世の時代に作られた石碑とか墓石、こういったものが実は北上川の下流のあたりにある石材地からこちらの方にも運ばれて作られているというようなお話をいただく。3回目は、三八地域の化石、あるいはどういった石材が取れるのか、最後4回目は三戸城の石垣についてお話をさせていただきます。こちらは間もなく各施設へチラシを配布する予定となっているため、詳しくはそちらを御覧いただきたい。

(松本副委員長)

ありがとうございました。今年度も期待しています。

(松井委員)

5ページ目の先人周知と、7ページ目の八戸圏域文化財魅力発信について質問させていただきたい。

とても面白い内容だが、見に行かないと触れられない展示であったりとか、ホームページでも検索しないと出てこないというものもある。例えばだが、小学校で使用しているChromebook(クロームブック)の中に、Googleサイトで教材化して、それをデジタルパネル化し、URLをホワイトリスト登録して全校で閲覧するように学校の方に組み込んでいけないかなと思うが、そのような話は教育委員会で出ているのか。Chromebookを1人1台持たせて

いただいている、連絡帳代わりに皆さんクラスルームで会話も結構しており、先生も含めて非常に活用している。文化財のカードの配布もとても魅力的だと思うが、ただこのカードを配るだけで終わらず、先人周知なども含めてクラスルームとかに組み込んでいく予定などはあるのかというところをお聞きしたい。

(総合教育センター所長)

システムのなところに関しては、おそらく可能ではないかなというところだが、内容的なところに関しては、具体的に他課と相談し、連携しながらというところで、少しお時間をいただければ。

(社会教育課長)

学校との付き合いも様々ある中で、例えば先人周知事業や文化財バトルカード、教材としても活用できるような「八戸ヒストリア」という歴史を紹介しているサイトがあるということについて、昨年度の段階で社会科担当の指導主事の先生と話をしたところである。まだ具体的にどのような形で活用するということまでは至っていないが、そういったことも相談しながら、良いものはどんどん学校に提供できるように、これから積極的に進めてまいりたいと思っている。

(松井委員)

ありがとうございます。もう一点は、図書館の18ページの電子図書館推進事業について伺いたい。若い世代の利用率がなかなか上がらないということで、どういう風に上げていくかが課題だと思うが、これに関しては、図書館の電子版も見させていただいたりしたが、例えばそのカードの登録さえあればクロームでも活用していけるのかなという点と、ただそれに関してはやはりセキュリティの問題が出てくるので、教育課担当さんのセキュリティの部分や学校の許可がないと難しいところではあるが、その点に関して、例えば学校の成果とかが触れるような方向性に持っていく案というのは今のところ出ているのか。

例えば家庭での読書の時間というのは小学生だと必ずあって、図書館にもよく行っている。なので、それだけでなく、ぜひこの素敵なシステムができたので、小学生や中学生もそれができる流れになればなと思っている。その図書館のカードさえあれば、登録してすぐに借りて読めると思うので、カードは先に作らないといけないかとは思いますが、それをクロームの方で取り入れていくというのは、話には出ているのかというところをお聞きしたい。

(図書館長)

Chromebook を管轄している総合教育センターと教育指導課ともこれから検討が必要な案件かと思うが、今おっしゃっていただいたのが全生徒ということではなくて、それぞれ利用

カードを持っている小中学生ということであれば、さらに御家庭の理解が必要。家庭によっては、本は紙で読んでほしいという思いもある家庭もあったりするのでは。

Chromebook などは様々な制限が入っているために、何でも見られるわけではないということからいくと、図書館ホームページや電子図書館のサイトを接続することは少し難しいのかなと思っているが、それを図書館のホームページに限って許すというような仕組みなど、技術的なことが可能であれば、今後検討してもいいのではないかなと思っている。

ただ、やはり小中学生に関しては、今回、電子図書館を導入するにあたっては、ちょっとまだスマホを持つことを推奨していない部分もあるのかなということ、高校生以上を対象にした本を選んでいるということもあり、電子図書館の蔵書としては、絵本や児童書が割合的には少ないかなと。今後 Chromebook でも見ることができるというような体制を構築できれば、逆に小学生向け、中学生向けを選書としてもう少し多めにしていくという工夫ができるかなと思っているが、これについては技術的なところと、児童生徒の読書教育ということからどうしていくか、それぞれの担当課で話し合い、検討が必要だと思っている。

(総合教育センター所長)

技術的にいけば、まず可能などころがあるのかなと思っている。ただ、色んな規定があり、どこまで可能か可能じゃないかというのを再度見ていかないといけない。例えば図書館の URL をつなぐことはもちろん可能であるため、そこだけ絞ってというのも可能。素晴らしいアイデアなので、どこまでがまず可能であるかというのを吟味し、相談しながら今後検討・研究していきたいと思っている。

(松井委員)

はい、ありがとうございます。

(根城委員)

2点お伺いしたい。1点は博物館の関係だが、たまたま昨日NHKを見ていて、クローズアップ現代という番組で、博物館の収集、保存にあたり収蔵庫が足りないという話があった。八戸市の場合は博物館や縄文館など色々あるが、収蔵庫についての現状を教えてください。

(博物館長)

現状はすでにいっぱいとなっているため、隣の江南小学校や廃校になった旧中野小学校の一角をお借りしている。これは博物館に限ったことではなく、是川縄文館も分散収蔵している状況で、今後ますます増えていく。他の先行事例として、最近だと愛知県では美術館に限らず他の施設も含めてみんなで協力して一か所保管庫をつくりましょうという考えに変わっ

できたりもしているため、博物館も今後、今回のリニューアルではなく、建て替える際には収蔵の在り方というものを検討してまいりたいと思っている。

(根城委員)

関連して、廃棄というのもあると思うが、八戸市はどうか。

(博物館長)

廃棄の件で先行しているのは、北海道の博物館と美術館である。人口が減って、それを支える自治体の財政規模が極端に小さくなってきたという現状の中で、どうやって今後維持していくかという選択肢の一つとして廃棄というのが出てきた。文化庁が今示している指針としては、基本的にはだめではなく、やっていいという方向にはなっているが、その場合には資料収集検討委員会などの組織を設け、きちんと判断基準を設けて会議に諮ってやってください、ということになっている。現在市の施設でそういった委員会を持っているのは美術館だけであり、当館は持っていないため、そういったものを検討するのであれば、今後また新たに組織を作って、その都度やっていくという方向になるかと思う。

(根城委員)

ありがとうございました。

もう一点、24 ページの中学校体育大会派遣補助金についてだが、近年、小中学校の部活動が地域移行という形になっている。地域移行の場合、学校単位ではないので、市外の子どもも同じサークルに参加するとなった場合に該当するかどうかお聞かせいただければ。

(教育部次長)

部活動の展開のほうにも関わっているため、私のほうからお答えする。

現時点では八戸市内の中学校の部活動は地域移行・地域展開ということで進めており、中体連の組織や大会も三戸郡と八戸市の合同開催ということになっているため、三戸郡の子どもたちも一緒に活動するという流れは想定していかなければならないと思っているが、現時点では八戸市内の中学生の部活動ということで、様々取組みを進めているところである。

(根城委員)

ありがとうございます。

(福田委員)

博物館の収蔵の話が出たが、図書館の蔵書のスペースの方はどうなっているのか。

(図書館長)

全く無い状況であるため、除籍というものを進めている。

(福田委員)

わかりました。東京の大学が定年になったのでずいぶん本があるが、それを寄贈するというのは難しいですね。

(図書館長)

寄贈ということ言うと、まず御自身がお書きになったもの、郷土に関するものを最優先でいただいております、それ以外については、小説などであれば状態が良ければ出版年数にかかわらず一応受入れているが、図書館の蔵書も調べてお断りすることもある。また、実用書や学術書の場合、出版から3年を目安に受け入れの可否を判断しているところではあるが、内容にもよるため、こういったものがあるか一度お見せいただければと思う。

(福田委員)

わかりました。私書いたものは全部図書館には寄贈しているので。

それから、いろいろな講座が多数展開されているが、例えば一冊の手帳みたいなものに、ここでは何をやっているのか分かるようになっているのか。

(社会教育課長)

県民カレッジのサイトで見れるところはあるが、そちらも全庁的に網羅しているわけではないかと思う。ただ、公民館講座については1,500講座が一覧で見れるようになっている。

(福田委員)

ありがとうございます。すごく色々なことをやっているのでもう少し展開できれば面白くなるんじゃないかと思う。

(社会教育課長)

ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思う。

(図書館長)

先ほどの小学生の電子図書館について補足させていただく。

図書館に実際に来館して利用している人数的に、高校生から大学生の年代が格段に落ちているということがあり、小学生はわりと利用数が多く、中学校になって一度ガタンと減り、さらに高校～19歳くらいまでは本当に減ってしまうという状況である。皆さん勉強・部活な

どで忙しい、なかなか開館しているときに行けないという意見を聞いていたため、それをカバーできないかということで、電子図書館を導入するにあたっては、本を選ぶ時も高校生から大学前半くらいのティーンズと呼ばれる世代を獲得できるように気を配ったということもあった。小中学生ということでは、Chromebook のシステム的なところと、実際に来てくださっている方達も多い中で、どのように家庭で電子図書館も利用していただくかということから、改めて関係課と検討させていただきたい。

(川守田委員長)

ありがとうございました。私も大学に勤めているが、図書館をあまり利用しない、それ以前に本を読まない学生がたくさんいるので非常に耳が痛かった。大学時代の図書館の利用者は非常に少なく、学習スペースやちょっと自分一人でいたいということで利用する人がいるが、研究もしているところなので、ぜひ本来の図書閲覧にも利用してほしい。何か連携事業などがあれば大学等でも協力していけるかなと思っている。

■案件（3）について

なし